



手前が新設されたE館

# 新棟(E館)が完成

## 戸田中央総合病院



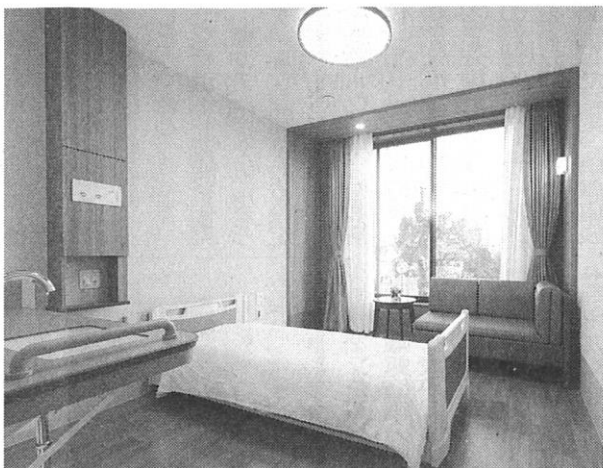
原田院長

このほど開設されたE館は、地域がん診療連携拠点病院として、将来的

# がん診療の機能強化

## 3月から稼働 地域で最先端治療を

首都圏に29病院などを展開する戸田中央医科グループ(中村隆俊会長、IMG)の基幹病院である医療法人社団東光会戸田中央総合病院(中村敦理理事長、原田谷治院長、埼玉県戸田市)の新棟(E館)がこのほど完成し、3月より稼働を開始した。地域がん診療連携拠点病院として、がん診療のさらなる機能強化を目的に放射線治療部門と緩和ケア部門を集約。国公立のがんセンターや大学病院の一部で整備が進められている最新の放射線治療装置の導入により、患者は住み慣れた地域で最先端の治療を受けることが可能となった。また、併せてE館へ移設された緩和ケア外来と緩和ケア病棟では、木目調の温かな内装や自然光を多く取り込む大きな窓の設置などにより、癒しの療養環境の充実がはかられた。



2階に設備された緩和ケア病棟

な「高度型」の取得も視野に入れながら整備が進められた。1階には放射線治療部門、2階には緩和ケア病棟、3階には核医学検査部門と緩和ケア外来を開設した。

1階の放射線治療部門には、定位放射線照射

な「高度型」の取得も視野に入れながら整備が進められた。1階には放射線治療部門、2階には緩和ケア病棟、3階には核医学検査部門と緩和ケア外来を開設した。

線照射(STI)や強度変調放射線治療(IMRT)などを短時間かつ高精度に実施できる最新鋭の高精度放射線治療装置「TrueBeam」を導入し、7月から運用を開始する。小さな病巣にピンポイントで照射する定位放射線照射(STI)は、脳腫瘍、転移性脳腫瘍、肺がん、肝がんなどに適応し、多発性脳転移に対するガンマナイフ治療と同等レベルの治療が約15分で実施できる。また、がん組織に集中して放射線を照射する強度変調放射線治療(IMRT)は、前立腺がん、脳腫瘍、頭頸部腫瘍、膵がんなどに適応。照射の強度を部分的に調整できるため、正常組織への被ばくを最小限に抑えた放射線治療が可能となった。放射線治療で重要な照射位置の正確性についても、画像誘導放射線治療(IGRT)という補助技術を兼ね備えている。

このほか、3階の核医学検査部門には、SPECT「Sybia

1861平方メートル、鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造で建設された。

Intevo」を導入。脳疾患や心臓疾患に加えて骨転移なども高感度に検出でき、早期発見、早期治療につながる。2階には緩和ケア病棟18床を設置。明るい日射しが射し込む南側の窓からは、隣接する戸田市児童センター「こども国」で遊ぶ子どもたちの姿を臨むこともできる。また、3階の緩和ケア外来の横に設けられた季節の催事などを行うラウンジは屋上テラスにつながっており、ベッドのままでも出られる設計となっている。

戸田中央総合病院は、病床数517床。診療科は内科、精神科、アレルギー科、リウマチ科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、呼吸器内科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、皮膚科、泌尿器科、循環器内科、腎臓内科、麻酔科、消化器内科、消化器外科、脳神経内科、乳腺外科、移植外科、病理診断科、救急科の28科を標準としている。E館は地上3階建て、延べ床面積約